

## 第 2 次検討ダムについて

改良の検討を行うことが適当と評価した 13 基の改良結果及び W T 評価結果を踏まえ、同様の工法により科学的検証が可能で、改修可能で改良に必要性が高い河川を抽出し、先行的な改良の検討を行うこととして、次の 2 河川を選定した。

以下参考：H25 第 1 回目 AP 会議資料より抜粋

### ○北海道森林管理局

- 1 オッカバケ川（羅臼町側） No.1・No.2 ダム 2 基  
（下流に北海道のダム 1 基（遡上可能）あり）
- 2 選定の理由
  - ・当該河川は、河川延長や流域面積が大きく、サケ科魚類が遡上するうえでのポテンシャルが高い。
  - ・カラフトマスは国有林 No.1 ダム直下での産卵が確認されており、改良することにより、上流部へのサケ科魚類の遡上範囲を拡大できる。また、下流ではシロザケの生息も確認されている。
  - ・これまでの改良結果等を踏まえ、同様の工法により効果が期待できる。
- 3 改良検討にあたっての課題等
  - ①工法の検討
    - ・ダム上流部の滞留土砂量及び土砂生産源が大きいことから、防災機能を低下させず、サケ科魚類の遡上が可能となる工法の選択
    - ・ダム上下流域の流路、河床のあり方の検討
  - ②その他
    - ・受益者（住民、漁業関係者（サケ・マス定置網・コンブ）、道路管理者）の合意形成を得ながら検討していく必要
    - ・北海道庁と連携した取組が必要  
（シロザケは北海道のダムから上流約 70m の自然段差まで遡上が確認されているので、段差解消の検討が必要（北海道ダムから国有林 No.1 ダムまでの区間長は約 400 m））

### ○北海道

- 1 モセカルベツ川（羅臼町側） No.1 床固工 1 基  
（上流に床固工 5 基、森林管理局所管谷止工等 6 基あり）
- 2 選定の理由
  - ・当該河川は、流路延長や流域面積が大きく、魚類の遡上が確認され、上流部に産卵環境がある。
  - ・民家近くまでヒグマが出没しており、対策を講じる必要がある。
- 3 改良検討にあたっての課題等
  - ①工法の検討
    - ・床固工は複断面放水路であるが、さらに落差を小さくし、魚類の遡上を容易にする。
    - ・放水路を拡幅し、濬筋の固定化を解消、産卵環境を拡大する。
  - ②その他
    - ・住民及び漁協から要望があり、羅臼町より施工要望書が提出されている。

## 先行河川の検討における課題等について

### ○オッカバケ川

別紙1のとおり

## 先行河川の現地検討会のメモについて

別添のとおり

## オッカバケ川 第2次検討ダム 留意点

- ① 防災機能を低下させない工法を選択。  
(災害履歴:S40年 台風23号の影響による河川増水氾濫を受けてS44年にNo2ダムの施工を実施。)
- ② 河口沿岸域でホタテ養殖、コンブ漁、ウニ漁、サケ・マス定置網の漁業を営んでいるため、改良するためには地元の合意形成が必要。さらに施工にあたっては河川の濁りに対して細心の注意が必要。
- ③ No2ダムの上流域に希少猛禽類が飛来。
- ④ 希少猛禽類及び漁場への配慮から、施工時期は11月後半～2月前半までに限定。
- ⑤ No1ダムは縦断図からスリット化するとNo2ダムに影響を及ぼす恐れがあり、スリット化は困難。
- ⑥ 施工を検討するにあたり、No1、No2ダムまでの作業道の設置が必要。また、No1ダムからNo2ダム間の作業道は河床を横断しなければならないため、河床改変を抑制するための栈橋設置の検討。
- ⑦ No2ダム上流への作業道の乗り越えは、沢幅が狭く露岩しているため大がかりな作業が必要。また、ダム袖部が短いため、魚道の設置が困難。
- ⑧ No2ダムは設置後45年経過し、経年による鋼材の品質低下が散見。